

名 鍍 会 だ よ い

No. 2

名鍍会の前川です。

平成17年10月15日(土)、16日(日)一泊二日で日本鍍金協会(JES)の秋季大会に、名鍍会は15名で参加してきました。

今年度はJES会長に名鍍会の鈴木泰造さんが選出され、名鍍会が当番幹事で一年間鈴木会長を補佐して運営しています。

JES秋季大会は毎年10月に行われ、工場見学のと、秋季大会、そして懇親会と言ったスケジュールで行っています。

今年は愛媛県・松山市にある住友金属鉱山(株)・ニッケル工場を見学してまいりました。

ここは国内唯一の電気ニッケル、電気コバルトの生産工場で、1939年に電気ニッケルの生産をスタート、現在月産3000tのニッケルを生産しているそうです。

簡単な行程は

<粉碎>=オーストリアとインドネシアからニッケルマットを輸入して混合・粉碎。

<浄液>=その粉碎したニッケルマットを電解行程で発生した塩素と反応させて不純物(銅、鉄など)を取り除いて純粋な塩化ニッケル溶液として電解行程に送る。

<電解>=この溶液を電解採取法によって陰極側に電気ニッケルを電着させて、不溶性陽極側で発生した塩素は浄液行程に繰り返され、再びニッケルマットとの反応に使用される。

<切断>=製造した電気ニッケルを様々な大きさに切断して梱包し完成。

といった行程を非常に大きなプラントで製造していました。



JES 鈴木会長



住友金属鉱山株式会社の前で

見学した感想ですが、ニッケル板はドロドロに溶かしたニッケルを型に流し込んで製造されていたと思っていたのが、我々と同様な電気めっきで製造されていた事に大変驚きました。

その後、住友金属様に場所をお借りして秋季大会を開催し、終了後宿泊先の道後温泉へバスで移動しました。

懇親会では東京・十日会、大阪・青研会のみなさんと懇親を深め、翌日は松山市内観光を楽しんで名古屋に帰って来ました。



★日本鍍金協会と名鍍会★

名鍍会が所属している日本鍍金協会について少しご説明いたします。

日本鍍金協会(Japan Electroplating Society)は

- 1、私達は良識ある日本人の誇りを持って行動したい。
- 2、私達は鍍金工業を通じて日本産業の興隆に寄与したい。
- 3、私達は開拓者の精神を以って業界の推進力になりたい。

昭和36年6月25日、この綱領を採択して日本鍍金協会が結成されました。

以来、東京(十日会)・大阪(青研会)・名古屋(名鍍会)の三会が集結し、各会の活発な活動のもとに、毎年、年次大会、秋季大会を開催し又、情報交換や研修事業等を実施するとともに、相互の親睦を図っております。

また、最近では京都(鍍秀会)や九州(九青会)などとも交流を広げており、めっき業界の次代を担う全国的な業界団体へと発展しております。

今後も名鍍会はJESに所属してそれぞれの地域の若手経営者と意見・情報交換など交流を深めて参りたいと思います。

§お知らせ§

来る平成18年1月21日(土)、名鍍会定時総会を中日パレスで執り行います。

今年は記念講演として、東京のツカサ開発株式会社・代表取締役 川又美智彦氏による『1000億円失って知った価値の根源』との題でご講演をいただける予定です。

氏は老朽化したアパートの有効利用として始めた「ウィークリーマンション」を6室からスタート。1980年代のバブル経済の時代に大きく業績を伸ばし、1988年2月発売の「週刊現代」に『日本の金満家』の一人として掲載されるに至りました。ところがバブル崩壊により、1000億円の資産家から、1000億円の債務者に。しかし逆境に負けず、現在は地域密着型不動産業をはじめ、情報サービス業、介護・医療福祉業などを展開していらっしゃいます。また『死後の世界』にも精通とか。楽しいご講演を頂けるかと思ひます。

詳細は追ってご連絡いたしますので是非、会員の皆様には多数の参加をお待ちしております。